縮小社会研究会　第 73 回研究会

「気候危機にどう向き合うか」

講師：江守正多さん（東京大学 未来ビジョン研究センター 教授、
国立環境研究所　地球システム領域 上級主席研究員）

日時：2023 年 6 月 6 日（火）　19：00 ～ 20：30
場所：オンライン開催（Zoom）　　参加費：無料

気温は産業革命後 1.1 度上昇し、その影響は氷河の溶解、気候変化およびそれによる環境変化、海水面の上昇など多岐に渡る。そして、まだ気温は上昇を続けている。気温上昇の原因は、大気中の二酸化炭素（CO_2）の上昇であることが国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）などの多くの科学者によって唱えられている。しかし、異を唱える人もいる。

二酸化炭素は石油などの化石燃料の燃焼によって発生するので、化石燃料の使用を止めて、太陽光や風などを利用した再生可能エネルギーや原子力の利用で賄おうとしている。化石燃料はコスト、エネルギー密度、貯蔵、運搬において優れているが、再生可能エネルギーで現在の生活を賄えるのかが問題である。また、化石燃料は化学繊維やプラスチック、薬品などの原料になっているが、その代替をどうするのか。原子力はその廃棄物の処理法がなく、単に貯蔵するだけであるが、何万年も貯蔵することは不可能で高コストである。はたして、今の文明を化石燃料なしで続けることが可能なのか。

これまで、化石燃料を使ってきたのは先進国であるが、その弊害は先進国だけではなく、全地球にまんべんなく降りかかっている。経済的に豊かな先進国では、気温の変化や高潮にはエアコンや防潮堤で局部的には対応でき、農作物も灌漑、農薬、化学肥料で気候変化に耐えることができるかもしれない。しかし、貧しい国では、どうすることもできない。このように、温暖化は南北問題となっている。

このような、温暖化の問題を、江守正多さんに解説していただきます。

江守正多さんの略歴および著書：　1970 年神奈川県生まれ。東京大学教養学部卒業。同大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。1997 年より国立環境研究所に勤務し、2022 年より地球システム領域上級主席研究員（社会対話・協働推進室長）。東京大学 未来ビジョン研究センター 教授を兼務（クロスアポイントメント）。専門は気候科学。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第 5 次および第 6 次評価報告書 主執筆者。著書に「異常気象と人類の選択」「地球温暖化の予測は『正しい』か？」、共著書に「地球温暖化はどれくらい『怖い』か？」「温暖化論のホンネ」等。

ZOOM の URL
https://us02web.zoom.us/j/84910041471?pwd=SkZBbkFJZGpwVG1IZnhoMjJPSys3QT09
パスコード：610150、　ミーティング ID：849 1004 1471

参加登録：会員は不要。非会員の方は松久（h.matsuhisa@shukusho.org）まで連絡願います。

一般社団法人 縮小社会研究会　e-mail: jimukyoku@shukusho.org　HP: http://shukusho.org/